

姉とのおもしろい思い出

Memories with My Sister

リー・マイケル

Lee, Michael

82-372(A) Advanced Japanese II

私の家族は五人家族で、姉も兄も一人いる。姉と私の年齢の差が三才だが子供のころ仲がとてもよかった。小さい時、二人とも顔が似ているから、一緒におばさんとおじさんに連れられて遊びに行った時会った人たちは、私と姉がおもしろくて可愛いと思って、子供の私たちと一緒に遊んだ。若かった私たちは、無邪気で知らない人でも一緒に遊べて、私たちを連れていたあばさんとおじさんは困っていたそうだ。

思い出して、姉は小さいころからいつも私のことを見ている。食べ物や飲み物やきつと私と分かる。でも、おばさんによると、小さい時、姉と一緒に海に遊びに行った時、姉は私に無情なことをした。二人で浜に沿って走っている時、急に私と持っていたおいしい飲み物を倒してしまった。姉がすぐに言ったことは「マイケル、大丈夫か」ではなくて、「マイケル、あのおいしい飲み物はこぼしたよ」だった。私の傷にぜんぜん聞かなかったそうだ。そうと聞いて、姉の態度に驚かれた私は、心がちょっと傷付いた。私が倒したことより飲み物のほうが大事そうだ。可哀そうな弟だと言って、おばさんとおじさんが、大きいな声で笑っていた。

しかし、姉との仲がよくても、私は高校生になった時、アメリカに来たから、一緒に住むことがなかったから、どんどん話す時間も少なくなったが、休みに会った時、二人はきっといつも学校のことを喋っていたから、時々両親にうるさいと言われた。姉はいつも頭がいいし、高校でも大学でも成績がよかったから、姉のこと尊敬している。ボストン大学から卒業して日本に日本語を勉強している一年半間にもう日語検定の一級の資格を取り切りだった。私も姉のように一級の目標にしている。姉は日本に行った後でもっと面白くて楽しくて本当に幸せそうだが、いつの日か私も旅行ではなく日本に住んでみたい。